

## 「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者102年キリスト者追悼祈祷会」声明文

私たちは、今日ここに、関東大震災虐殺102年を迎えるにあたり、6000人以上の朝鮮人と700人以上の中国人が関東全域で虐殺された事実に向き合うために集まりました。

1923年9月の関東大震災虐殺は、1910年の韓国強制併合の以前から、植民地支配に抵抗する朝鮮民衆運動を日本軍が「討伐」という名によって「殲滅」殺戮し、さらに三・一独立万歳運動(1919年)を「不逞鮮人」暴動として軍と官憲が7,000人以上の民衆を惨殺しながら弾圧した植民地支配の延長線上に起こりました。関東大震災虐殺は大震災直後の何の根拠もない流言蜚語をきっかけに「不逞鮮人暴動」を理由として天皇の勅令による戒厳令発布(9月2日正午)を契機に戒厳軍と官憲によって始まりました。更に在郷軍人をはじめとする民衆で構成された自警団は、街中の至る所に設けられた検問所で通る人々に「十五円五十銭」と言わせ、濁音をうまく発音できない朝鮮人をあぶり出し捕らえて惨殺した事実を決して忘れてはなりません。

翻ってあの虐殺から102年の歳月を経た今年、去る7月20日投開票の第27回参議院選挙をめぐり外国人への規制強化を多くの与野党各党が競って打ち出す中、あたかも102年前に引き戻されたかのごとく在日外国人への敵愾心をあおる選挙演説の名を借りたヘイトスピーチが日本社会に撒き散らされました。さらに、ヘイトをあおる人々の周囲に集まった群衆から拍手が起こる異常事態となりました。きっかけは「日本人ファースト」を掲げる政党が「外国人は日本人より優遇されている」との事実無根の言説を拡散し、外国人への規制強化を訴えたことから始まりました。事実無根の言説の拡散によって疑心暗鬼と敵意があおられ、それが炎上すればするほど人々の支持を得て議席が伸びるという現実が今の日本社会に進行していることが改めて浮き彫りになりました。

同時に、2023年と2024年に「出入国管理及び難民認定法」が相次いで改悪されました。2023年の改悪では、極めて低い難民認定率の下、3回目以降の難民申請に際しては申請中であっても強制送還の対象となり、送還に応じない人を「送還忌避罪」の罪名により「犯罪者」として処罰するもので、更に2024年の改悪は永住者の永住

資格取消事由が拡大されています。いずれも外国人住民に対し「不法」移民と呼び、「違法」を印象づけ、外国人の排除・排斥を法改正によって進めています。政府による外国人排斥の扇動が、一般社会の外国人排斥を誘導してヘイトを引き起こす構造は、102年前に政府による「不逞鮮人」という印象操作の下で震災後の虐殺が引き起こされた構図と重なります。私たちは今、虐殺の一步手前に立っていることを覚えなければなりません。

2025年、世界のいたるところで排外主義を標榜する集団が姿を現し始め、日本社会においても排外主義の声が強くなろうとしています。社会の多数派とは異なる文化・習慣・背景を持つ人々への排撃・抑圧は、社会的少数者だけの危機では決してありません。排外主義が市民社会全体を蝕む時、社会は急速にファシズム化して戦争へと進み、必ず遠からず崩壊に至ることを近現代の歴史が実証しています。そうであるからこそ、世界平和を希求する国際人権諸条約は排外主義と差別を許さないための法整備をその批准国に対して求めています。しかし日本政府は国際社会の一員としてのこの義務と責任に未だ応えようとしていません。

7月の参議院選挙の街頭演説を取り囲む群衆の中から、「十五円五十銭って言ってみな」という102年前の虐殺を意図的に連想させる野次までもが出現しました。このヘイトをあおる中心の演説と、それをはやし立てるように取り巻く群衆の姿は、102年前に銃・日本刀・鳶口をもって捕らえられた朝鮮人たちを惨殺する戒厳軍・官憲・自警団員という暴虐の中心を、群衆がはやし立て取り囲んだ虐殺現場の光景と重なります。その同心円の外側には、虐殺に加担もせず、しかしその暴虐を諷める声も上げず、背を向けて黙認する人々が存在しました。この暴虐の同心円が、今も私たちの生きるこの社会にも息づいていることを覚えずにおれません。そして私たちはさらにキリスト者として、イエスが捕らえられたのち、三度も「あの人を知らない」とイエスとの関りを否認したペトロを思い浮かべつつ、あの102年前(注)も、そして今も、キリストの教会はどこにいて、何をしていたか、という問いの前に立たされます。

私たちは、教会が呼び集められ遣わされた世にあって、十字架のイエスを黙想しつつ、今、この社会に噴き出し広がる外国人排外主義に言葉と行いによって抵抗出来

るようにと切に神に祈ります。この社会で「標的」となり犠牲者となる人々と共に生き、共に苦しみを担う道はイエスが歩まれた道であると信じます。ここに集まる私たちがイエスを信じる信仰を証しし、共に苦しみを担う道を歩むことができますように。

2025年8月30日

関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者102年キリスト者追悼祈祷会

(注) 1923年11月に、当時のプロテスタント諸教派が連合して構成した日本基督教聯盟の発足総会の資料にはそのつい二ヶ月前に起こった大虐殺についての言及も追悼の祈りについても何一つ記録として残されていません。当時のそれぞれの教会もその虐殺について敢えて沈黙し記録を残さなかったのか、日本キリスト教史研究の課題といえます。